

## 令和3年度 第7回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 令和4年3月8日(火) 14:00~16:00
- 2 開催場所 小平市中央公民館 講座室2
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 11名(うちZOOM参加者2名)  
事務局 中央公民館長、館長補佐兼事業担当係長、管理担当係長、  
分館担当係長9名(上宿公民館欠席)
- 4 傍聴者 2名
- 5 配布資料 (1) 提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1  
(2) 令和3年度 小平市公民館定期講座等実施状況表・・・・・・・・資料2  
(3) 令和3年度 東京都公民館連絡協議会 職員部会 報告・・・・資料3  
(4) 令和4年度 小平市立公民館事業計画(案)・・・・・・・・資料4  
(5) 令和3年度 第6回小平市公民館運営審議会 会議要録・・・・資料5
- 6 次第 (1) 館長報告  
(2) 令和3年度公民館定期講座等について  
(3) 東京都公民館連絡協議会について  
(4) 令和4年度 小平市立公民館事業計画(案)について  
(5) 提言について  
(6) その他

### 会議の概要

#### 1 館長報告

##### (1) 市議会3月定例会について(概略)

- 1 代表質問ではフォーラム小平より「市長の見据える市政運営と令和4年度予算について」の質問の中で、「小学校を地域の核とした地域コミュニティの醸成を図る取組をどのように進めていくのか」、一般質問では、橋本久雄議員より「小学校に併設される地区交流センターの設置で運営形態はどうなるのか」及び「中央エリアの3つの施設を複

合化した（仮称）新建物について」、川里富美議員より「公共施設を複合化して建て替える市立小学校の施設の考え方について」、公共施設マネジメントに関する質問があった。

① 「小学校と公民館等の複合化」関係についての答弁は、

- ・基本計画策定では、検討初期からワークショップなどの市民参加等を段階的に行い、施設へ愛着や誇りを持っていただけるように検討を進める。
- ・地域コミュニティ施設の方向性検討の中で、（仮称）地区交流センターの役割等を整理した上で、開かれた学校づくりを推進し、学校と家庭・地域社会の連携、及び協働を図り、地域コミュニティづくりを支えることができる仕組みづくりを検討する。
- ・「（仮称）十一小地区交流センターの運営形態」は、地域コミュニティ施設の方向性を踏まえた検討の中で、管理運営方法も整理するが、多様な地域住民等が集まり、気軽に交流できる居場所として、施設全体で利便性が高くなるような管理運営方法を検討する。単なる貸館機能だけではなく、地域交流の拠点や地域コミュニティの醸成に繋がる運営を検討する。
- ・「（仮称）地区交流センター運営形態の市民への説明」は、地域コミュニティ施設の方向性の検討をしている段階で、今後、個別施設計画に基づく取組を進める中で、管理運営方法についても丁寧に説明を行っていく。
- ・「小平第十一小学校等複合施設の整備に関する基本計画の策定期間」については、本年度末を予定している。
- ・「社会教育施設としての機能の保障」は、現在行われている多様な学習、サークル活動、地域活動などを継続して行うことができ、また、学習の成果を地域に還元する公民館の機能を維持しつつ、小学校に併設されることを生かして、これまで以上に多様な方々に関わっていただけるような施設となるよう検討する。
- ・「複合化施設の使い方」は、基本計画素案では、児童の安全面を確保するため、動線やエリアの区分に配慮することや、学校施設と（仮称）十一小地区交流センターの出入口を別に設置することのほか、セキュリティの考え方を示している。一方で、地域に開かれた学校づくりの推進や、複合化を機に、さらなる地域コミュニティの醸成を見据えており、学校と地域の施設を完全に分断してしまうと交流が生まれず、地域コミュニティが育たない懸念があるため、セキュリティを確保しながら、地域と学校の重なりをつくっていききたい。基本設計においても、学校や地域の皆様からのご意見を伺いながら、検討する。

② 「中央エリアの（仮称）新建物」についての答弁は、

- ・「（仮称）新建物の延べ床面積縮減の考え方」は、エントランスや廊下、階段、エレベーター等の共用部を集約することで、全体の延べ床面積の縮減を図りたい。市民が利用

する部屋については、利用実態に即した実用的な活用が可能なように共用化、多目的化する。具体的な内容は、今後の設計の中で検討する。

・「(仮称) 新建物へ設置するホールの規模と数」については、今後の設計の中で検討するが、設置に当たっては可動間仕切りで可變的に区切れるようにするなど、フレキシブルに利用できる空間を目指す。

・「市民の皆様の意見聴取」は、説明会やワークショップ、ヒアリング、オープンハウス等の実施を検討している。意見交換とフィードバックの反復により、丁寧な対応に努める。

・「(仮称) 新建物の今後のスケジュール」は、来年6月頃に基本設計、令和7年3月頃に実施設計完了予定。その後工事に着手し、令和8年度以降の完成を予定している。

・「会議室・集会室は公民館条例に基づく施設か」は、現在検討中であり、施設の運営、運用については、効率的で様々な活動に支障を及ぼさない形を目指していく。

## 2 佐藤徹議員より「ウィズコロナ時代の地域センター・公民館・図書館のあり方を問う」の質問について

・「オンライン講座のできる通信環境の整備」は、今後、小川駅西口新公共施設、及び中央エリアの(仮称) 新建物において、Wi-Fi 環境の整備を予定している。地域センターや公民館など、ほかの公共施設も、Wi-Fi 環境の段階的な整備に向けて、方向性を検討していく。

・「市独自の高齢者向けスマートフォン講習会」は、公民館の主催講座として、スマートフォンを含めたデジタル端末の操作等に関する講座を例年実施しており、今後も継続した実施を検討する。

・「40代以降の世代を意識した講座」は、事業企画委員会で、地域における課題解決に向けた企画をしており、40代以上の世代をターゲットとすることや、様々な事業者と連携することで、地域における課題の解決に向かう講座の企画も検討している。今後も、事業企画委員会の皆様とともにアイデアを出し合いながら、様々な講座の内容を検討していく。

## 3 石津はるか議員より「地域コミュニティを守り、市民の挑戦を応援するために既存施設や空き家等の活用を」の質問について

・「公民館の利用率向上のための主な施策」は、各館において公民館事業企画委員会が企画する多様な講座や、公民館利用者が実行委員となるイベントなどを開催し、公民館利用の促進に努めている。課題としては、就業者を中心とした現役世代の利用が少ないことと捉えており、対策として、夜間や土曜日、日曜日に講座やイベントを開催している。

## (2) 令和4年度の公民館事業の予算概要について

2月28日の3月市議会定例会の初日に提出され、予算特別委員会で審議されたのち、3月29日の最終日に議決される予定である。

公民館事業の予算は、1億8千8百57万7千円となり、前年度と比較して、3百75万6千円の増となっている。

令和3年度予算は、市全体で約6%のマイナスシーリングにより、大幅に減額されたが、令和4年度予算は、分館の事業費を1館あたり、約10万円程度増額して要求した。

その他、大きなものとしては、トイレの洋式化や窓ガラス飛散防止フィルムなどの修繕料を増額して要求している。特徴的なものとしては、仲町公民館にオンライン会議・講座を導入するため、Zoomのライセンスを要求した。

(3) 3月7日以降の公民館の運営状況について

3月4日に、国・東京都における対策会議が開催され、「まん延防止等重点措置」の延長が決定された。東京都の要請は内容に変更がないため、3月6日までの措置、「基本的な感染対策の徹底」及び「午後9時までの利用について協力を依頼」することを継続する。期間は「まん延防止等重点措置」期間である、3月21日（月・祝）までとなる。

(質疑応答)

委員 今年、オンライン予算が仲町公民館だけということだが、これで全11館ある公民館のどのくらいがオンライン化されたのか。

館長 Wi-Fi環境が整っているところで仲町公民館に設置した。他の分館についてはWi-Fi環境がまだ整っていないため、すぐにはできない。市では、自治体DX（デジタルトランスフォーメーション）の施策の方で市内の公共施設についてWi-Fiの設置の検討を開始することなので、Wi-Fi環境の整備状況を見ながら今後もオンラインのできるような形を検討していく流れになっていく。

委員 公共施設マネジメントの観点から、公民館は減らすから積極的に予算を付けないのではないかと感じられる。

館長 明確な回答はできないが、デジタルトランスフォーメーションに関しては、かなり早い段階で取り組めるようにと、かなり強力に力を入れていると受け止めている。改築までに付かないのではないかと趣旨かと思うが、その前にそのような環境が必要になるとの判断がなされるのではないかと前向きに受け止めている。現実的には、公民館も積極的にオンライン化を進めているので関係課に要求をしていきたい。

委員 東京商工会議所は、セミナーや講演会について原則ハイブリッドに移行していくとの

ことを聞いた。一般の企業も期待しているとのことだった。世の中の流れとして配慮してもらえないと小平が遅れるのではないかとの思いがあることだけ伝えておく。

委員 隈研吾事務所の説明会で平面図を見たが、①中央公民館よりかなり狭くなっていると思うがどうか。②共用部分のロビー、エレベーター、機械室が1か所になるので、そんなに狭くならないかも知れないという話があったが、かなり狭くなっている気がするがどうか。③ホールが1階に1か所しかなかったと思う。公民館のホールは180名定員、福祉会館の5階ホールも300から400名、4階の小ホールが200名ぐらい入るでしょうか。この3つは有効に使っていたので新築物も「ホールが大切だ」と今までの2年間の市民の会議での声も大きかった。

館長 まだ、隈研吾事務所のアイデアの段階で、決定ではないと認識している。今後の検討で決定していくものと認識している。

## 2 令和3年度小平市公民館定期講座等について

各館から、1年間の特徴的な取り組みについて説明した。

中央 現在開催中の講座もあるが、講座・イベントについては、一覧のとおりである。また、サークルフェアやみんなでつくる音楽祭のライブ配信、こだいらオール公民館まつりを実行委員会と協力して実施した。いずれの講座・イベントにおいても全国公民館連合会が示す「公民館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に則って実施した。厳しい人数制限やマスクの着用、手指消毒、検温のお願いなど受講者やイベント参加者をはじめ、講師の方にもご不便をおかけしたが、講座やイベントを発端とした感染拡大はなかったと認識している。令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により様々な制約がある中での事業展開となったが、その副産物としてZoomを活用したオンライン講座を行った。オンラインを活用した講座を6コース、実際にZoomの使い方を学ぶ講座を3コース、その他事業企画委員会などにおいても積極的にZoomを活用した。職員も慣れないことから受講者には多少の不満もあったと思うが、試行錯誤しながら積極的に取り組んだ。

小川 2講座、及び公民館まつりが中止となった。子育て支援講座「リトミックで親子のふれあい」、文化・教養講座「漢字の成り立ちと書道」については、講座終了後サークル化となり、活動中である。

花小金井北 防災・生活安全講座「災害時でも簡単に作れる料理」は試食を伴う講座であり、講師

の意向もあり中止となった。来年度に改めて開催する予定である。文化・教養講座「初心者向けZ o o m講座」は、事業企画委員会で企画され、Z o o mの基本操作を学び各種の会議やイベントに参加するための目的で実施した。昨年度と同様3つの講座で、サークル化した。継続して学ぶ機会を作ることができ、公民館の活性化に寄与することができた。

上 宿 防災・生活安全講座「みんなでまなぼう！安全パワーアップ教室」、シニア講座「ACP（人生会議）自宅や地域で、自分らしく暮らすための医療や介護について学ぶ」の2コース3回について、Z o o mによるオンライン講座を開催した。今後は、各館の講座の実施状況を情報共有し、非常時における公民館のできることや可能性を話し合う必要性を感じた。

上 水 南 3つの講座でサークル化となり、活動中である。そのうち2つのサークルは、来月から定期利用団体となり活動する。応募者が多かったリトミックの講座から立ち上がったサークルでは、講座の抽選に漏れた方にも声をかけて活動している。コロナ禍で講座の定員が少なく受講生が少ない中、ぎりぎりの人数でサークル化がされており、今後も活動が継続できるよう公民館で支援をしていく。

小川西町 子育て支援講座「地域で子育て 地域できる子育て支援」が講座終了後に話し合いを続け、「だれでも食堂ゆらり」というサークルとして活動を始めた。その後、プレオープンをする予定だったがまん延防止等重点措置が発令されたため、現在プレオープンもできない状態となっている。今後の目標としては地域での社会福祉に寄与する持続的な取り組みを目指して地域への広報や支援者を募りながら、メンバーの固定化を図ること、また食事以外の学びの場、交流の場の取り組みも実施したいと思っている。試行錯誤を伴いながらの実施となるが公民館も助言しながら伴走支援したいと思っている。

花小金井南 ジュニア講座「ドローンを飛ばそう 小学生のための入門編」は2年前に予定していた講座だった。1つのコントローラーを共用しないため、7組限定での開催としたが、保護者の参加も可能としたため、実質的に20人程度で実施した。実際にドローンを操作することで、コロナ禍でステイホームが続いている中、子どもだけでなく保護者にとっても楽しい時間を共有できたのではないかと思う。

仲 町 文化・教養講座なかまちテラスL i N K S講座の「コトバで楽しむ五か国旅行」は、小平高校に勤務する外国人の講師をお招きした。コロナ禍で自由に海外旅行ができない中、講座では外国人との交流、異なる五か国の言語や文化を学び、また自由に旅行

ができる時期に備えて知識を高める講座となった。受講者からは、「旅行気分が十分に味わえる講座となった」と大変好評だった。サークル化について呼びかけをしたが、今年度は残念ながらサークル化に至った講座はなかった。このことを反省点として来年度はサークル化に力を入れていきたい。

津 田 コロナの影響により健康づくり講座「椅子タップダンスでレッツ・ダンス」、ジュニア講座「ジュニアクッキング」が春先中止になった。「椅子タップダンスでレッツ・ダンス」は秋に無事開催されたが、「ジュニアクッキング」は3月末に春休みを利用して子どもを対象に開催を検討していたが、オミクロン株の子どもへの影響が大きいことから講師との調整のうえ中止とした。その他、今年度は実技を取り入れた講座を多く開催した。実技系の講座は、大変好評だったので今後も大事にしていきたい。「椅子タップダンスでレッツ・ダンス」はサークル化に向けて準備中である。

大 沼 シニア講座「コロナに負けるな！誰でもできるフレイル予防」は、サークル化に至った。活動が長く続けられるように今後も支援をしていきたい。全体として比較的回数の少ない講座が多かった。コロナの影響で、シニア講座「なつかしの曲を歌ってみよう」については、2年連続で中止とした。また、健康づくり講座「ネット・ゲーム依存に気を付けよう」は6月開催予定であったが、改めてオンライン講座として見直し、回数も3回から2回として、3月に開催する予定である。

鈴 木 防災・生活安全講座「みんなで学ぼう！災害時に役立つキャンプスキル」について、人員不足で中止となった。小・中学生とその保護者を対象とした講座で、コロナの影響で応募を控えたものと思う。また、子育て支援講座「親子で楽しくリトミック」、ジュニア講座「自分の車を作って自動車レースをしよう！」は、当初予定していた講座がコロナの影響で中止となり、代替の講座として実施したものである。コロナの感染状況の先行きが読めない中、当初の企画より感染リスクが下がるものとして企画している。来年度以降も状況に応じて柔軟に対応していきたいと考えている。今年度は1講座でサークル化したが、当公民館では、既存のサークルがある講座の受講生へは、既存のサークルへの案内にも力を入れている。

(質疑応答)

委 員 大沼公民館の健康づくり講座「ネット・ゲーム依存に気を付けよう」の講座は、受講対象はどの世代か。

分館長 特に世代は区切らず、知識としてゲーム・ネット依存とはどういうものかという学びから始まって対処法までという内容である。

委員 子育て世代にはこの話題がすごくあがっていて、すごく需要がある内容だと思うが、開催時間が平日の金曜日の午後2時から4時で、今回は受講できない。今後の開催には土曜日の午前中など検討してほしい。

3 令和3年度 東京都公民館連絡協議会について

分館長より資料3について説明した。

委員部会は 前は勝谷会長の体調不良により欠席。3月は久米委員が出席する予定。

4 令和4年度 小平市立公民館事業計画（案）について

事務局より資料4について説明した。

5 提言について

資料1を中央公民館館長に提出した。

6 その他

(1) 委員から2年間の感想

委員 この2年間はコロナの真只中で、早々に公民館など公共の建物が閉鎖してしまった。誰もどこにも出かけられない中、公民館などの公共の建物のありがたみを感じた。その後、公共施設では最初に図書館が開館し、市民からのお礼がたくさん来ていたようである。せめて、公民館のロビーや広場などで集まって野外で会議をしたいとの話も出ていた。今後は、公共の建物、公民館だからできることを考えていかなければならない。後半の1年間は、定員を減らしたり各館の様々な工夫によって、講座を企画し実施したことはとてもよかった。今まで公民館に行かなかった人も公民館もこんな時にこんな大事な役目があったと気づき感謝していると思う。

委員 公民館はもっと活躍できる場所があるのではないかと考えている。公民館は宝の山で、それをどうやって使うかという結論が出ていない。前回の提言と今回の提言では、内容が変わっていないところが多々ある。前回の提言からどこまで変わったのかが見えないので、1回見直さないといけないと思う。事業企画委員会と公民館運営審議会と一緒に何かやる必要があると思う。

大沼公民館と花小金井南公民館で日本語の支援をしている。本日も新規の人が5人ほ



ど来て、絵を習いたいという人もいた。ということは、みなさん、公民館に何があるか知らない。審議会では居場所づくり、Wi-Fi 設備などの議論があったが、あるだけではダメでそれには人が必要である。人をどうするかについて、再度見直す必要がある。また、若者をどう取り込むか。日本語支援には学生たちも来ているので、つながりがあれば来れるはずで、糸を手繰る作業をしなければならない。そのためには、居場所づくりが大事だと思うが、そのための居場所づくりはロビーである必要はないので、お金がかからない企画を考えるべきだと思う。

委員 館長はじめ分館長が一生懸命されていることが、よくわかった。居場所を具体的に気楽にできるということで提案したかった。コロナの感染拡大によって、集会してはいけない、集まってはいけない、ということで、公民館も閉館となって、この2年間は忸怩たるものがあった。コロナも収束するかと思ったが、2年間では収束しなかった。ここで、海外での紛争もあり、普通の地道な平和な生活ができることがありがたい。今後は、どのような居場所づくりが大切かを考えていきたい。アフターコロナにおいては、きずなとつながりが大切で、新しいつながりや居場所づくりについてさらに勉強していきたい。

委員 以前は委員同士の懇親会などで意見交換をしていたと聞いたが、今期はコロナのために、個別に集まり意見交換が思うようにできなかったことが残念である。定例会よりも自主研修会の方が、それぞれの普段の活動から活発に意見交換ができて、そこで学ぶことが多かったと思う。定例会においてももっと活発に意見交換ができればよかったと思った。

私も公民館の可能性の大きさを感じている。先日の公民館まつりのサークルの展示やフラダンスや音楽などの発表を見学した。公民館は、学習も大事だが、文化・芸術も大事だと思った。コロナの影響でコンサートが中止となり、美術館も休館となっていたが、公民館まつりでは発表の場があり、また見ている側の感動があり、改めて公民館活動は素晴らしいと思った。これからも、コロナの影響はあると思うが公民館の可能性を追求して広めていきたい。

委員 コロナの影響で公民館活動はもっと低迷するのかと思っていたが、皆さんの努力によって、全体で110本もの講座が実施できたことは、大きな成果だと思う。審議会もZoom参加を可能として開催できたことは進歩の証だと思う。とは言っても、公民館の長期低迷傾向は止まらず、コロナによってさらに進行した。なんとか引き留めることをずっと考えていたが、公民館を育てる人材不足が大きいと思う。世代交代をしないといけないが次の世代が見つからない。小平市にもいい人材が埋もれていると思うので、これからは、人材を発掘・育成するような講座を充実させることが必要だと思う。

う。公民館は70年ほど経過するが、時代に合ったような考え方を取り入れるべきだと思う。前例踏襲自体が、低迷傾向の原因ではないかと思う。さらには、講座について事業企画委員の努力が大事だと思うが、事業企画委員に11館ある横のつながりを作ってあげたかった。もっと、審議会としても事業企画委員との交流ができればよかった。

委員 コロナばかりで何をしてきたか、忸怩たる思いをしている。しかし、前向きに考えるといい機会だったのではないか。これまで公民館はマンネリ化してきた流れの中で、これを機に新しいステップに進むのでないか。今後は、アフターコロナのときに、公民館が実施することに期待をしていて、自分自身も何かしていかなければならないと思っている。事業企画委員会については、せっかくいい企画ができて、コロナで実現不可能になってしまうこともあり、委員のモチベーションを維持するうえで、運営していくことが大変だったと思う。コロナの影響で、Zoomやハイブリッドなどの新しい言葉が出てきた。これまでの公民館は、対面が地域の人にとって重要で、公民館に足を運ぶだけで健康に寄与しているということもあるので、コロナが収束したときには、よりよく復活できることを期待している。また、若い人にもっと利用してほしいということでは、小川公民館は、学園エリアで大学が多い。産学で何ができるかをもう少し考えて、大学に力を借りて公民館を活性化し、なにか新しいものができるように考えていきたい。

委員 小川西町公民館友の会から参加したが、子育て世代の意見を少しでも届けられたらと思って参加した。この2年間のうちに、自分のサークルでは参加者が激減した。責任者でもあるので、継続するにはどうしていったらいいかメンバーと相談した。春からまた、改めてどのようにサークル活動を継続していけるかを考えている。子育て世代には、公民館は「友・遊子ども広場」などがあり、公民館のすばらしさを回りの方に伝えていきたい。今後は、折り紙講師としても活動していたので、公民館のために関わっていきたい。

委員 コロナの2年間だったと思う。コロナによって、公民館の新たな存在意義、新たな道筋ができてきたと思う。民生委員として、80代の一人暮らしの方から、家族には止められているが、コロナにかかってもデイサービスに行きたいとの話を聞いた。公民館もそのような場所だと思つづく思った。まつりの作品も拝見したが、他愛もない会話があってできた作品だと想像できた。Zoomでできることは大切だと思うが、公民館は居場所としての人間関係を作る場でもあるという気がした。最後に、先日のこだいらオール公民館まつりのけやき青年教室のコンサートでは、ものすごく活気があって、ものすごく楽しそうに活動しているのを見て感動した。

- 委員 たくさんの方のことを学ばせていただいた。公民館は、全ての世代の人の居場所になっていて、自分が生き生きできる場所だということを感じた。公民館活動の充実がうれしいという気持ちになり、小平市が住みやすいまちとなり、住みたいという人が増えていく核となる場所だと感じた。改めて、公民館は人と人をつなぐ場所ということも感じた。オンラインを体験したからこそ、やはり対面の大事さを改めて感じた。学校も同じで、学校では、オンラインの対応、GIGAスクール構想のタブレットの使い方については若手の職員が活躍している。新しい取り組みのアイデアを出して、中堅・ベテランがアドバイスをし、必死になって新しいことに向かっている。公民館でも20代や10代がどのように考えているか聞いたらより面白くなると思う。審議会の議論の中では、誰一人取り残さないという言葉が心に残っている。これから私自身も考えていきたい。
- 委員 いつもZoom参加で、このような参加形態を可能にさせていただいて感謝している。Zoom参加は、従来型の欠席か出席の0か10ではなく、0ではなく3くらいになるが、周辺的な参加であることは間違いない。このような参加形態は、不登校や障がい、出産などの理由により、人生の中で誰にでも起こり得るもので、そのような時期には役に立つ選択だと思う。対面とは言えないが、このような細いつながりを持つ意味は大きく、従来の参加ができるようになったときに役に立つと思っている。公民館には場所があるという意味では、Zoomもあり、ハイブリッドもあり、対面もあることから大きな可能性を持っている。ただし、その入り口については、多様性があるとは言いきれない部分がある。コロナをきっかけに、このような細いつながりを従来持っている居場所や対面に生かすことができれば、いろいろな人に届くと思う。提言に関しては、誰も取り残さない、居場所という言葉が多々出てきた。これも大きな変化で、公民館が学びの場所から居場所へ変化してきている。大学の立場から言うと、居場所は学びよりふらっと行けるイメージだと思うが、若い人は実は目的を持って行動する。習い事や塾など、放課後が細分化されていて、今はふらっと校庭で遊ぶ子どもがいない世代だと思う。居場所は求めているが、若い人の入り口はとても狭い。若い人には、テーマ性や目的が大事で、その学びを通してしか居場所を作れない。若い人を巻き込もうということであれば、個人の意識や課題、その学びを受け止めることから始めて、公民館の入り口づくりを工夫し、細いつながりを入り口にして広げていければ、若い人たちが参加してくると思う。
- 会長 この2年間の審議会は、コロナで始まりコロナの中で終わった。サークル活動の縮小、公民館まつりの中止、解散したサークルもあると聞いている。人と人の距離が遠くなったことは、公民館においては大きな課題である。各館の事業企画委員会や公民館

まつりに足を運ぶ機会も少なく、委員同士の情報の共有も充分できなかったと思う。審議会ではオンライン会議を導入し、ハイブリッドで開催したが、会議の進行に苦労した。改めて、公民館の場所性を考えると対面での重要性を再確認した。時代の変革と共に、公民館への期待は高く、今後はコロナ後の公民館のあり方を考える時が来ている。

感染防止対策には、公民館に感謝する。また、提言提出にあたり、委員の皆様から多様な貴重なご意見を伺い、提言をまとめることができたことに感謝する。提言については、できることから実践することを期待している。

公共施設マネジメントについては、市制施行 100 周年にむけて「いつまでもわくわくする場をみんなで創ろう」という基本理念を掲げ取り組みが始まっているが、100 周年の変わりゆく街を見届けることはできないことは残念と思うが、未来の子供たちのために期待している。